第13章　貸倒引当金

13－1　貸倒損失

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒れの内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒損失」勘定（費用）

（１）貸倒れ

取引先が倒産したことなどにより、売掛金や受取手形といった債権が回収できなくなることを、**貸倒れ**（かしだおれ）といいます。

（２）当期発生売掛金の貸倒れ

売掛金が回収できなくなり、資産としての価値がなくなったので、貸倒れ時に「売掛金」勘定（資産）を減少させます。また、貸倒れに伴う費用を「**貸倒損失**（かしだおれそんしつ）」勘定（**費用**）で処理します。

例題13－１　**得意先に対して、当期に商品を掛けで売り上げていたが、得意先が倒産し、売掛金1,000円が回収不能となった。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　1,000 /　売　上　1,000

「売掛金」勘定（資産）の減少と「貸倒損失」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒損失	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

13－2　貸倒引当金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒引当金の内容を理解しよう！

②　貸倒引当金の算定方法をマスターしよう！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒引当金繰入」勘定（費用）

（1）貸倒引当金

売掛金などの貸倒れに備えて、あらかじめ準備した金額を**貸倒引当金**といいます。決算にあたり、当期末における売掛金や受取手形などの債権が、次期以降にどれだけ貸し倒れるかを予測し、その見積額を貸倒引当金として計上します。

（2）設定方法

① 設定対象

売掛金や受取手形といった**債権の期末残高**が対象となります。

② 実績率

その見積額は、過去の貸倒れの実績に基づいて算定された実績率を用いて設定しますが、全商簿記３級ではその実績率は問題文に与えられます。

③ 計算式

貸倒見積額 ＝ 売掛金・受取手形の期末残高 × 貸倒実績率

（3）仕訳

貸倒見積額は「**貸倒引当金繰入**」勘定（**費用**）と「**貸倒引当金**」勘定を用いて処理します。**決算整理仕訳**として行われます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸 倒 引 当 金 繰 入	×××	**貸　倒　引　当　金**	×××

なお、「貸倒引当金」勘定は、設定対象となった**売掛金や受取手形のマイナス**を表す**評価勘定**（資産のマイナス＝**貸方科目**）です。なお、評価勘定とは、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定のことをいいます。

貸 借 対 照 表

2030年12月31日

⋮			
売　　掛　　金	10,000		
貸 倒 引 当 金	△300	9,700	

例題13－2　**売掛金の期末残高10,000円に対して３%の貸倒れを見積もり、貸倒引当金を設定する。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸倒引当金繰入	**300**	**貸　倒　引　当　金**	**300**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

（4）差額補充法

決算で貸倒引当金を設定するにあたり、前期に設定した貸倒引当金に残高がある場合があります。その場合、当期末の見積額と決算整理前の残高の差額を追加で繰り入れます。この方法を**差額補充法**（さがくほじゅうほう）といいます。

例題13－3　**売掛金の期末残高10,000円に対して３%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。なお、決算整理前の貸倒引当金残高は100円であった。**

①　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

売　　掛　　金	10,000	貸　倒　引　当　金	100

②　決算整理

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸倒引当金繰入	**200**	**貸　倒　引　当　金**	**200**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

貸倒見積額300－貸倒引当金決算整理前残高100＝貸倒引当金繰入200

③　決算整理後残高試算表

決算整理後の「貸倒引当金」勘定は見積額300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

売　　掛　　金	10,000	貸　倒　引　当　金	300
貸倒引当金繰入	200		

13－３　貸倒時の処理

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕訳をマスターしよう！

②　貸倒引当金の残高に注意しよう！

③　いつ発生した売掛金が貸し倒れたのかに注意すること！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒損失」勘定（費用）

（１）前期以前発生売掛金の貸倒れ

①　貸倒金額　＜　貸倒引当金残高

前期以前に発生した売掛金については前期末に貸倒引当金を設定しています。したがって、貸倒れ時に「売掛金」勘定（資産）を減少させるとともに「**貸倒引当金**」勘定を減少させせます。

例題13－４　**得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は2,000円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸　倒　引　当　金	**1,000**	**売　　掛　　金**	**1,000**

②　貸倒金額　＞　貸倒引当金残高

貸倒引当金の残高を上回る貸倒れが生じた場合、上回った金額は「**貸倒損失**」勘定（費用）の増加として処理します。

例題13－５　**得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は800円であった。**

貸倒引当金の残高800円を上回る200円については「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸　倒　引　当　金	**800**	**売　　掛　　金**	**1,000**
貸　　倒　　損　　失	**200**		

（２）当期発生売掛金の貸倒れ

［13－１］で学習しましたが、当期発生売掛金の貸倒れについては、「**貸倒損失**」勘定（**費用**）で処理します。これは当期発生売掛金については決算が到来していないので、貸倒引当金を設定していません。そのため、貸倒引当金を用いることができないと考えてもよいでしょう。

（３）貸倒時の処理のまとめ

①当期発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒損失
②前期以前発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒引当金の減少
貸倒引当金残高を上回る場合は、貸倒損失

Point!　貸し倒れた売掛金・受取手形がいつ発生したか確認すること！

第13章　貸倒引当金　問題

問題13-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金50,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は37,000円であった。

② 前期に発生した売掛金20,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は38,000円であった。

③ 当期に売り上げた商品に関する売掛金16,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金残高は25,000円であった。

④ 受取手形の期末残高200,000円および売掛金の期末残高350,000円に対して、２％の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前残高試算表における貸倒引当金は7,000円であった。

第13章　貸倒引当金　答案用紙

問題13-1

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
①				
②				
③				
④				

第13章　貸倒引当金　解答解説

問題13-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	貸倒引当金	37,000	売掛金	50,000
	貸倒損失	13,000		
②	貸倒引当金	20,000	売掛金	20,000
③	貸倒損失	16,000	売掛金	16,000
④	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000

問題13-1　**解説**

①　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。また、貸倒引当金の残高を上回る貸倒が生じた場合、その超過額を「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

②　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。

③　当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

④　貸倒見積高と決算整理前の残高との差額を「貸倒引当金繰入」勘定（費用）で処理します。

貸倒見積高：(200,000＋350,000)×2%＝11,000

貸倒引当金繰入：11,000－前T/B 貸倒引当金7,000＝4,000